

最新版 緊急警告 MEGA地震予測 「3.11」と酷似する異常変動を観測! 3月下旬まで厳重警戒の全国4エリア



池谷朗セレクトシヨ
美しき70年代女優

輝く!ヌード写真集大賞 1994-2003

水沢アキ、斎藤陽子、菅野美穂、かとうれいこほか116作品



栗原心平が案内
おとなキャンプの
ごちそうレシピ

週刊ポパイ
不倫醜聞の福原愛に中国から「こっちにおいて」
プレミアム合併特大号 **なをん** 2本立て!!
わちみなみ 薫 轟く匂い

どうして「みずほ銀行」ばかりダメなのか

ATMトラブル対応「三菱UFJ」「三井住友」ならどうなった? 2021 Mar. 3.19/26 特別定価520円

激論 コロナと「表現」

登場人物にマスクをさせるか、させないか
漫画家、映画監督、脚本家11人「私はこう考える」
「ゴルゴ13 さいとう・たかを」倫理観の押し付けには抵抗する
島耕作 弘兼憲史「コロナを描かない情報漫画はあり得ない」ほか

秋篠宮皇嗣 夫 妻 信号を止めるな「大騒動」宮内庁の困惑

第4波「到来」 到来までに済ませておく12のこと
GWの旅行を予約してOK? 延期していた冠婚葬祭の手配は?
自粛生活で知らぬ間に進行していた「コロナ以外の重病」
「隠れががん患者」4万人
検査を受けられず、手術も抗がん剤も手遅れに
祟りも長期化で「脳出血は2倍に」心筋梗塞 発症から
診療開始まで「4時間の空白」60歳以上の3割が「認知機能低下」

令和版・官僚特権「すべて書く」
「7万円ステーキ」よりオイシイ役人たちの「副収入」逃入入院のあざとい手口

巻頭カラー
石巻、陸前高田、気仙沼、宮古、そして福島第一原発の「定点観測グラフ」
東日本大震災10年「復興する風景」
あの人はいま……
「反原発のカリスマ小出助教、テレビ朝系「絶叫実況アナ」、放射能つけちゃうぞ」大臣、「ポポポポ」CM「歌手」ほか
タイガー・ウッズも池江璃花子も魅惑、絶望からの「アスリート復活」感動秘話



国立がん研究センターの最新(17年)のデータでは、がんと診断された新規患者は年間約100万人で、そのうち5大がんは約57万人を占める。「このうち、人間ドックなど任意も含めた検診でがんが見つかるのは12万人ほど。今年度は例年より3割検診が減ったとす

内視鏡検査は3割減

早期発見が難しい状況で懸念されるのは「がん死」の増加だ。国際医療福祉大学病院内科学予防医学センターの石英一郎教授が指摘する。

「がん細胞はごく初期の段階から数年、数十年かけて、一般的ながん検診で発見できる1センチ程度の大きさになります(早期がん)。その後は、種類にもよりますが、1、2年の間にがん細胞が急増し、進行がんと呼ばれる状態になります。その前にはがんを発見す

ることが重要です」

発見が遅ければ、手術も抗がん剤も手遅れになりかねない。

一石教授がまず注意を促すのは、胃がんだ。

「I期の5年生存率が100%近く、早期に発見すれば根治も可能ですが、自覚症状がなく気づかない人が多い。早期発見には内視鏡検査が重要ですが、検査時にゲホゲホと飛沫が散り、医師と看護師と受診者が密になるため、コロナ禍では避けられがちです。



早期発見には内視鏡検査が欠かせない

しかし胃がんはステージが1つ上がると2、3割も死亡率が上がるので、検診で早期に見つけることが大切です(二石教授)

日本人男性死亡数3位の大腸がんも胃がんと同様、内視鏡検査が忌避される傾向がある。

例えば神戸大病院では昨年4、5月の胃カメラ、大腸カメラの検査件数が前年同期比で約3割減少したと報じられた。

「カナダ・クイーンズ大が約130万人を対象に

した最新の研究では、大腸がんの治療が1か月遅れると患者の死亡リスクが13%増えました。大腸がんも早期では自覚症状が少なく、定期的な検診が必須です」(二石教授)

「日本男性の死因1位の肺がんは、進行するまで無症状で見つからず、症状が出た頃には手遅れになりやすいので、咳き込みや息切れが続いたら要注意です。50、60代に多い膵臓がんも進行するまで症状が出にくいのが、背中が凝った感じがするケースがある。リモートワークや運動不足による凝りと間違えやすいが、いつもと何か違う」と感じたら受診してください(二石教授)

「指摘されているのが、『がん見逃しによる死』がコロナ死を上回る可能性です。特にこれまでコロナ死が8000人と欧米に比べて少ない日本は、がんの見逃し死がそれを上回る事態が懸念されます(二石教授)

「4万人という数字に『不安を煽るな』と批判する人もいるが、現場の医師は隠れがん患者の急増に危機感を抱いている。4万人という数字を出すことで一般の人々が検診

いま怖れるべき「コロナ以外の大病」

巣ごもり生活の長期化で 脳出血入院患者数は2倍に

くどうちあき脳神経外科クリニックの工藤千秋院長のもとに、最近、ある患者が運び込まれた。

60代の女性で、3週間ほど前にろれつが回らなくなる症状が出たが、数日で元に戻った。翌週にも同じことを繰り返した

が、窮屈な生活が続いて自粛疲れしたのだろう」と気にも留めなかったという。翌週には目眩もなくなったが、コロナリスクを考えて自宅で様子見。だが、翌日に突然、倒れ込んでしまったという。

「目眩やろれつが回らないというのは典型的な脳卒中の初期症状で、大きな発作を起こすと命取りになりかねず、半身まひや言語障害など重い後遺症が残ります(工藤院長)

かつて日本人の死因1位だった脳卒中は脳出血、くも膜下脳梗塞などの「脳血管疾患」の総称で、患者数は年間約11

2万人と推定される。昨年の日本神経学会では、順天堂大学順天堂医院・脳神経内科の平健一郎氏が、脳出血患者の増加について「コロナ禍での自粛生活が影響した可能性がある」と説明した。コロナ第1波下にあたる昨年3、4月の脳出血による入院患者数は12例で、それ以前の4年間の同時期と比較すると2倍強だったという(参考資料:医療・医学ニュースサイト『メディカルトリビュン』)。

患者数の増加はなぜ起きているのか。AIC八重洲クリニック・循環器内科科長の手塚大介医師が語る。「自粛生活により普段から運動習慣のなかった人

はさらに運動不足になる。食事もテイクアウトや宅配でコレステロールや脂質が高い食事を摂りがちで、間食も増えてしまう。心理的ストレスやうつも加わって、高血圧をはじめとした生活習慣病を悪化させ、それが脳卒中を引き起こす要因と考えられます」

さらに工藤院長はこんな傾向に警鐘を鳴らす。「受診控えて血圧の薬を切らしてしまい、そのまま服用を止めている患者が多い印象があります。日本神経学会では心房細動のある患者が抗凝固剤の服用を中止した結果、脳梗塞を発症したケースを報告していますが、これは当院でもありました。心房細動は脳梗塞発症の

高リスク因子ですが、こうした重篤化しやすい患者ですらコロナを怖れて通院を止めてしまい、ほったらかしになってしまっている現状があります」

緊急搬送されたとしても病院で治療を受けられるとは限らない現実もある。1月5日、日本脳卒中学会は脳卒中患者へのコロナ禍の影響についてまとめた。それによると、「コロナ陰性でない」と脳卒中患者用ベッドをコロナ患者用に転用した」などの理由で、昨年12月14日時点で、全国の13施設が患者の受け入れを停止し、118施設が救急搬送の一部を受けられないなどの診療制限が行なわれていたという。緊急時の対応が困難な状況だからこそ、自ら体調の異変に注意を払う必要がある。



素人判断は危険

『週刊ポスト』次号(4月2日号)は3月19日(金)発売です

一部地域で発売日
が異なります